

「スマートICとは」

背景

- ◇ 我が国の高速道路におけるインターチェンジ(IC)の設置間隔は約10kmと、諸外国の約4~5kmに比べ2倍となっています。また、高速道路が通過する市町村のうち、約3割はICが設置しておらず、追加ICに対する地域の要望も強くありました。
- ◇ このような背景のもと国土交通省では、既存の高速道路の有効活用や、地域生活の充実、地域経済の活性化を推進するため建設・管理コストの削減が可能なスマートインターチェンジ(ETC専用IC)を導入することとなりました。



スマートインターチェンジとは

- ◇ スマートインターチェンジ(スマートIC)は、高速道路の「本線」や「サービスエリア、パーキングエリア」から乗り降りができるように設置されるICであり、通行可能な車両(料金の支払い方法)を、ETC車載器を搭載した車両に限定しているICです。
- ◇ 利用車両が限定されているため、簡易な料金所の設置で済み、料金徴収員が不要なため、従来のICに比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。

本線直結型とは

- スマートICのうち、高速道路本線へ直接アクセス路を接続させるもの。
- サービスエリア、パーキングエリアの存在しない箇所を設置することができる。



本線直結型イメージ図



水戸北スマートIC(常磐自動車道)

SA・PA接続型とは

- 高速道路との接続箇所が、サービスエリア・パーキングエリアであるもの。
- 既存の施設を活用することにより、比較的容易にアクセス路を確保することができる。



SA・PA接続型イメージ図



三芳スマートIC(関越自動車道)

